

四條畷市教育委員会ニュース

(学校教育課)

内容：

- ・ 教員としてのスタート
- ・ 新規採用教職員辞令交付式
- ・ 平成28年度入学式

教員としてのスタート

～四條畷市教育委員会教育長の辞令交付式挨拶から抜粋～

教員としてのスタートに当たり、激励の思いを込めてお話しします。気合の入ったいい意味での緊張感をもって、先輩教員や管理職の先生と一緒に、四條畷の教育に力を注いで欲しいと思います。

教育の目的は何か、各々の答える表現は異なりますし、一口では言えないでしょうが、私は、人間として生きる目的を追求する営みそのものであると

～ 四條畷の魅力とは ～

「四條畷」という地名から皆さんは何を連想するでしょうか。「飯盛山」、「楠木正行」、「四條畷神社」、「四條畷の戦い」などを挙げる人が多いでしょうか。四條畷の歴史をたどれば、非常に興味深いことがたくさんあります。古代から古墳時代のころ、四條畷の西側は、「河内湾」、「河内潟」、「河内湖」と呼ばれ、大阪湾から今の外環状線あたりまで海とつながっていたことがわかります。そのころ、多くの渡来人が大陸から朝鮮半島を通り、船で荒海を乗り越えてこの四條畷の地にやってきて生活の拠点を構え、大陸文化を伝えたとされています。特に、古墳時代には、馬とその飼育技術が四條畷に伝えられ、葎屋北遺跡ではその放牧地の存在を示す馬一体分の骨や馬具などが多数見つかっています。また、JR忍ヶ丘駅近くの遺跡では、馬形埴輪も出土しています。雁屋遺跡の一部となっている本校の敷地内においても、大規模改築時に、弥生時代前期の土器や弥生人の足跡などが発見され、四條畷が近畿で最初の農耕文化の発祥の地とされることを物語っています。それらの出土品の一部が、本校東別館2階にある資料室に保管されていますので機会があればぜひ見てください。

そのほか、南北朝時代に四條畷の戦いで戦死した楠木正行の墓所、戦国時代に三好長慶が城主となった飯盛城址、日本最古となる田原城主であった田原レイマンのキリシタン墓碑などが史跡として有名なものです。

畷高から歩いて5分ほどのところに、「四條畷市立歴史民俗資料館」があるのをご存じですか。四條畷市の歴史を知るには最適な博物館です。私も初めてこの資料館で説明を聞いた時には驚きと感動の連続でした。

最後にもう一つ。畷高在学中に、飯盛山の山頂にぜひ一度は登ってみてください。山頂から眺める景色は最高ですよ。私は、おそらく100回近く登ったと思います。ただし、クラブのトレーニングの一環で走って登り下りしただけだったので景色を眺める余裕はありませんでした。ちなみに登頂300回を達成した第2代校長の青木先生の記念碑が山頂にあります。偉大な記録です。昨春に、その青木先生の孫娘さんが学校へ来られ、その記念碑もご覧になってとても感激されていました。

皆さんもこんな地元「四條畷」の史跡めぐりをしてみてはどうでしょうか。きっと「四條畷」の新たな発見とともにその魅力に取りつかれること請け合いです。

(四條畷高等学校 前校長 清水 隆)



考えま

す。皆さんが選ばれた教員は、日々仕事としてこれを担う大変すばらしい職業です。

教育基本法の第1条には、教育の目的が明記され、そして第2条に5つの教育の目標があります。目標の5番目は、伝統と文化の尊重及び郷土愛、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことです。郷土愛・愛国心、国際人として国際社会の平和、互いに尊重し合う態度は、自分自身のアイデンティティ、拠り所があって初めて示せるのではないかと思います。その原点として、自分が生まれ、あるいは育った地域・四條畷市の良さ、特性に誇りと愛着を持って欲しいと願っています。皆さんも、縁あって四條畷市の教員になったのですから、この地域に誇りと愛着を持って欲しいのです。教える子どもたちは、四條畷市の街に住み育っています。その子どもたちに対して、先生たちが自分自身の言葉で語り、子どもたちに伝えて欲しいのです。

大阪府立四條畷高等学校の校長をこの3月末に退任された清水先生が、年誌「楠の若葉」第50号の巻頭言に寄せられた文章があります。ここには「四條畷の魅力」が、的確な見識とご自身の体験などを交えた生き生きとした表現でまとめられており、素晴らしいものです。これだけの中身を1000字程で語るのは至難の技です。この機会にご一読下さい。

新任採用教員辞令交付式

平成 28 年度 新規採用教職員任命式が、4 月 1 日午前 10 時 15 分から、大阪市内のオリックス劇場に於いて行われました。

大阪府教育委員会教育長から、服務規律について、あいさつをすること、時間を守ることを、教師として不祥事のないようにすること等、教育公務員としての自覚を促すことと、今の気持ちを忘れず情熱をもって働いて欲しいとの話がありました。

本市に赴任する新規採用教員 9 名は、午後 2 時から辞令交付式に出席し、教育長から辞令を受け取った後、配属校の校長先生の案内で、それぞれの市立小・中学校へと出発していききました。



小・中学校で入学式

4 月 6 日 (水) 午前 10 時から、晴天と美しい満開の桜が咲き誇る中、市内の公立小学校 7 校 (1 年生 441 名) で入学式が行われました。

四條畷小学校では、1 年生 (82 名) が校舎出入口に張り出された名簿から、自分のクラスを知った後、体育館で保護者や教職員等に温かい拍手に迎えられ、元気に明るく、ちょっぴり緊張した表情で式に臨んでいました。

入学式の挨拶の中で、鉄 寿広校長は、「元気にあいさつをすること」「しっかり勉強すること」「友だちと仲良くすること」を学校生活の 3 つの願いとして児童に話しました。

4 月 7 日 (木)、午前 10 時から、入学式が市内の公立中学校 4 校 (1 年生 560 名) で行われました。

四條畷西中学校では第 38 回の入学式を迎え、第 40 期の 1 年生 (196 名) が体育館入口に飾られた『立志の門』をくぐって入場してきました。竹村 正光校長が、中学校の三年間、心身共に成長して勉強、クラブ、友だち等に考え悩む時期であるけれども、一人でなく友だちや家族、先生に相談しながら成長して欲しい。四條畷西中学校は、助け愛、励まし愛、学び愛の 3 つの愛を大切にしている。一人一人の個性を認め、仲間を大切にコツコツ努力して、一生の宝物となるよう学校生活を送って欲しいと話しました。1 年生の佐野美晴さんは、新入生代表の言葉で、充実した毎日が過ごせるよう頑張り、将来の夢に近づけるよう一日一日を大切に多くのことを学びたいと語りました。

